

平成18年度 決算報告書

国立大学法人 熊本大学

(単位：百万円)

区 分	予算額	決算額	差 額 (決算 - 予算)	備考
収入				
運営費交付金	17,174	17,174	0	
施設整備費補助金	1,255	1,258	3	(注1)
施設整備資金貸付償還時補助金	0	0	0	
補助金等収入	159	291	132	(注2)
国立大学財務・経営センター施設費交付金	58	58	0	
自己収入	21,065	22,543	1,478	
授業料、入学料及び検定料収入	6,182	6,328	146	(注3)
附属病院収入	14,777	15,858	1,081	(注4)
財産処分収入	0	0	0	
雑収入	106	357	251	(注5)
産学連携等研究収入及び寄附金収入等	2,195	2,541	346	(注6)
長期借入金	8,155	8,148	7	(注7)
貸付金回収金	0	0	0	
承継剰余金	0	2	2	(注8)
目的積立金取崩	187	469	282	(注9)
計	50,248	52,484	2,236	
支出				
業務費	28,843	30,972	2,129	(注10)
教育研究経費	16,035	14,846	1,189	
診療経費	12,808	16,126	3,318	
一般管理費	7,174	5,301	1,873	(注11)
施設整備費	9,468	9,464	4	(注12)
補助金等	159	291	132	(注13)
産学連携等研究経費及び寄附金事業費等	2,195	2,299	104	(注14)
貸付金	0	0	0	
長期借入金償還金	2,409	2,436	27	(注15)
国立大学法人財務・経営センター施設費納付金	0	0	0	
計	50,248	50,763	515	
収入 - 支出	0	1,721	1,721	

予算と決算の差異について

(注1) 執行残額の使用について文部科学省と協議後、事業計画を変更したため、予算額に比して決算額が3百万円多額となっています。

(注2) 各種補助金等の獲得に努めたため、予算額に比して決算額が132百万円多額となっています。

(注3) 授業料、入学料及び検定料収入については、在籍者数の増に伴い、予算額に比して決算額が146百万円多額となっています。

(注4) 附属病院収入については、平均在院日数の短縮等を含め、増収努力に努めたこと等により予算額に比して決算額が1,081百万円多額となっています。

(注5) 雑収入については、主として科研費間接経費の増等により、予算額に比して決算額が251百万円多額となっています。

(注6) 外部資金の獲得に努めたため、予算額に比して決算額が346百万円多額となっています。

(注7) 借入金に係る入札差金により、予算額に比して決算額が7百万円少額となっています。

(注8) 予定していなかった和解金が発生したため、予算額に比して決算額が2百万円多額となっています。

(注9) 各学部において、教育、研究環境の改善を図ったため、予算額に比して決算額が282百万円多額となっています。

(注10) 診療経費については、増収に伴う医薬品の増、看護師の増を図ったため、教育研究経費及び一般管理費より予算を振替えたため、予算額に比して決算額が多額となっています。

(注11) 教育研究経費及び診療経費へ振替えたため、予算額に比して決算額が1,873百万円少額となっています。

(注12) 借入金に係る入札残により、予算額に比して決算額が4百万円少額となっています。

(注13) (注2)に示した理由等により、予算額に比して決算額が132百万円多額となっています。

(注14) (注6)に示した理由等により、予算額に比して決算額が104百万円多額となっています。

(注15) 中央診療棟開院に伴う医療用機械の購入において、早期借入を実施したため、予算額に比して決算額が27百万円多額となっています。